

に協力している。王氏は国内で進む高齢化の問題にも触れ「日本を見本とするため、介護福祉などのシルバ―産業を今後の連携分野として交流を深めていきたい」との考えを示した。

県内の医療、福祉 現状と課題共有 山形

大沼政務官、意見交換会
県内の厚生労働関係の団体と大沼瑞穂厚生労働政務官の意見交換会が12日、山



県内の医療、福祉団体と意見を交わす
大沼瑞穂厚生労働政務官

山形市・山形グランドホテル

形市の山形グランドホテルで開かれた。医療、福祉などの24団体が参加し、高齢化の影響や人材不足など現状と課題を共有した。

意見交換では、介護の担い手不足の訴えが目立ち、全体として人数が充足しているとの指摘もあつた。県老人福祉施設協議会は海外からの人材確保に向け、国家戦略特区の活用を要望。

県知的障害者福祉協会は、障害者とその家族の高齢化を指摘し「国

は地域の中で支える仕組みを進めているが、県内に広がっていない」と伝えた。

地域の医療、福祉の現状を聞き、課題解決につな

げようと、大沼政務官が各団体に呼び掛けた。県議も参加し、県政で取り得る対応を考えた。要望を受け、大沼政務官は「地域一体で取り組む必要がある。市町村とも連携し、こうした会を県内で随時開催できるように努める」と述べた。